



教授

大槻 剛巳

教育重点及び概要

2011年度から衛生公衆衛生学、予防医学、健康管理学、健康増進医学、中毒学等の社会医学系講義が「医学・医療と社会ユニット」として統合されて、第4学年に授業を行っていたが、2014年度からは、同じく第4学年に対して「環境社会医学ユニット」と「予防医学ユニット」として再編された。

これは、これまで別ユニットで担当されていた法医学領域の講義を、社会医学系に全体として統合すること、それに伴って我々の教室に毒性学専門の教員が新たに赴任することになったこと、そして、従来も講義コマ数として比較的大きな講義ユニットであり、学期をまたがった科目となっており学期制の評価を重んじる本学としてはコマ配分などで苦慮する面が生じていたこと、そして、本邦全体としての臨床実習の強化の潮流に合わせて第4学年から臨床実習が開始されることによるカリキュラムの再編成等の理由による。

衛生学教室としては、「環境社会医学ユニット」の中で、食品保健・環境保健・産業保健・感染症の授業を担当するとともに、2014年度から開始された法医解剖見学を担当する。法医解剖見学については、岡山大学法医学分野のご協力を得て、岡山大学鹿田キャンパスの法医解剖室で行われる法医解剖の見学をさせていただく。なんとといっても、実施されることを予め立てておくことが出来ない実習になるので、開始当初は学生・教員ともに若干の混乱が生じる可能性もあるが、可能なかぎり円滑に見学が行われるようにと実践している。

また法医学領域の講義については、岡山大学・香川大学・大阪市立大学及び川崎医療福祉大学の先生方のご協力を得て、2015年度より、内容を刷新して教育を行う体制となった。快くお願いを受けてくださった学外の非常勤講師の先生方に謹んで御礼を述べたく思うとともに、学生諸子も緊張

感を一層高めて受講してもらいたいと願っている。

また「予防医学ユニット」では学外施設の見学・実習を担当する。全教員がその引率にあたる。見学・実習では地域保健、感染症対策、疾病が原因で社会的あるいは政治的に弱者となった方々への施設、老人保健と福祉、労働衛生、廃棄物処理、健康増進対策、国民栄養などの観点から、百聞は一見に如かずの言葉通りに、現場を見学そして体験させていただき、将来医師になる者としての視点で見学・実習を行わせていただくことになる。既に、第3学年ではほぼ臨床医学の履修も終了し、ほとんどの疾病の病態などが把握されている上で、見学・実習を経験することにより疾病と社会との関わりについて、十分な理解と掌握が得られるようにと考えている。

ほとんどの見学先では、個々の学生が異なったレポートテーマを与えられ、見学の感想とともに、レポートとして何らかのテーマについて、文献や情報を取得した上で、自らの考察を加えるという作業を行う。そして、その提出についてもWEB上で行き、全員分が揃った段階で、WEBを介して見学先の施設の方々にも閲覧していただけるシステムを構築しており、こういった体験はe-Learningの実践としても有用ではないかと長年、対応している所である。

e-Learningに関連して、「環境社会医学ユニット」と「予防医学ユニット」では、期末試験、補充試験については、e-Testingを実施する予定である。特に第4学年は、2学期末の時期にCBTを受験することになっているが、CBTの場合には、主に五者択一あるいは択二のような問題形式においてコンピューターでの回答形式であること、またコンピューターならではの問題に関連する画像などの提示もモニター上で閲覧することになること、などを考慮し、学内試験においても同様の経験をできるようにということで、我々は数年以上

にわたってe-Testingを行っている。実際にはキーボードでの入力による筆記問題の出題も可能ではあるが入力スキルの個人差などを配慮し、また、CBT自体に筆記出題がないことも勘案して、社会医学系のe-Testingでは、五者択一あるいは択二の問題形式で出題している。ただ、CBTが多数のプール問題から選択された問題が、個々の受験生で異なってくることの体験であることも考慮して、しかし、科目試験の場合には、プール問題の設定は、個々の学生の問題全体としての難易度の差が出てはいけないこともあって、実施できず全員が同じ問題を受験することにはなるが、WEBで構築することのメリットとして、問題の出題順を個々の学生でランダムに設定することができる上、同じ問題でも選択肢の並び順もランダムに設定することが可能である。これによって、PCのモニター上で、隣に着席している学生と、同時に同じ問題に取り組むことも非常に稀な上、その状況でも選択肢の並び順は異なるという状況でのテストとなる。学年が始まる4月初旬の1コマを利用して、それぞれの見学、さらにe-Testingのオリエンテーションの時間を設け、学生も当惑なく対応できるように努めている。

教室の学問領域に対応するこういった授業以外に、西村は第1学年の教養選択科目リベラル・アーツ1の中の「ワンダーサイエンス」の主任を務める。

また大槻が、2012年度ならびに2013年度に第2学年の教養選択科目リベラル・アーツ2で受け持った「健康と素因・環境そして生活」及び「健康と、それを取り巻く環境」の2つの科目について、2015年度には10年目を迎える「大学コンソーシアム岡山」における単位互換遠隔授業制度の一環としてのVOD（video on demand）配信科目として、引き続き配信されている。本学学生は修学が単位制でないこともあり、またカリキュラム設定が強固であるために、「大学コンソーシアム岡山」の展開する単位互換制度を利用することはないが、参画している大学として、この組織のメインテーマである教育改革とその実践の中での単位互換制度に協力するために、それぞれの科目については当該年度に、まずLIVE配信授業の前期科目（本学では1学期に実施していた）他学の学生がTV会議システムを介して受講した実績があった。また、後期科目としてVOD配信をし、これも他学の学生が受講して単位を与えてきた。しかし、LIVE配信については2014年度より「大学コンソーシアム岡山」の中で受講生増加を目的として、複

数大学でのオムニバス授業の利用が行われ始めた。4大学が同じ科目を共有し、それぞれの学生がLIVE配信を利用するという体制である。よって、川崎医科大学としては2014年度からはLIVE配信授業を中止し、その分、過去の配信科目のうち、内容的に現在でも受容可能な講義について、配信することとした。ちなみに前期では岡山理科大学・岡山大学・就実大学・山陽学園大学・ノートルダム清心女子大学より8名の受講生が登録されており、レポート課題への回答を読むのも楽しみになっている。

また、昨今ではflip teachingが種々の教育現場（特に大学教育）での話題でありトレンドとなってきたが、大槻の担当する枠のいくつかで展開の試みを実施したく思っている。教科書指定している科目の中で、将来的な国家試験関連の内容は、すべてそこに記載されており、現状では時間的な制約もあって、授業ではそれを読み上げるに留まらざるを得ない。それを打開する一つの方策としていわば試運転を試みたい。授業のスライドなどの中で、その単元のテーマについて、より社会性の強い、あるいは専門性の高い内容を届けることによって、10年、20年後に良医として行動を起こす種を巻いてみたいというものである。

○昨年度の自己点検・評価と課題：行った見学・実習（予防医学ユニットないし法医学）は、それでも滞りなく実施できた。課題として、授業の内容で教科書記載内容に触れるしかない部分を、flip teachingで解決してみる試行を行う。

研究分野及び主要研究テーマ

環境免疫学として、繊維・粒子状物質の免疫影響ならびに健康増進住環境について研究を行っている。

○昨年度の自己点検・評価と課題：大槻が日本衛生学会学会賞を受賞、また西村が昨秋、フランスで行われた珪肺症のclosed meetingに招聘されて発表するなど、国内外から一定の評価を受けていると考えている。また特許申請も研究テーマで実施できた。今後、研究業績とともに産学官連携も含めて発展させていきたい。

今年度の方策

教育については、年度末までにflip teachingを実施し、運用への道筋を確定し、次年度円滑に行えるようにする。研究では論文ならびに著者業績を教室研究職人数と同等の数、発表する。